

定により、今年も同神社での開催となった。

今回も旧軍関係者は伊藤会長のみとなり、元幹部自衛官12名と13名の出席となった。

総会は、午前10時に同神社社務所大広間床の間の「国旗」に正対し国歌斉唱で始まった。

続いて、この1年間の当会会員物改者、57期田島 勝平様、58期桜庭 司様、61期安ヶ平 隆治様に対し黙祷を捧げた。

伊藤哲也会長仙幼49期が挨拶で、旧軍関係者が少なくなり、11名となったが、元自衛隊幹部の方々が入会してくれ、今年も総会が開催出来るのは本当に悦ばしいと語った。

次いで、事務局長を議長として、議案の審議が始まった。先ず、昨年度議決事項の確認がなされた。

引き続き、昨年度の事業報告がなされた。昨年度は南スーダン派遣施設隊安全祈願祭、日の丸御守り贈呈、師団長感謝状の受賞、旧弘前偕行社環境整備等支援委員会設立など、例年のない特色のある年度であったことが報告された。特に、師団長感謝状の受賞は、青森県偕行会始まって以来の慶事と強調された。

続いて「元幹部自衛官の入会促進について」審議がなされた。特に、偕行社が示す「入会促進業務推進にあたっての留意事項」を深く認識して、身近な知人に

入会を直接働き掛けるべく意見が交わされた。

4番目の議案として「旧弘前偕行社環境整備事業に関する協力」に関し、平成25年以降の経緯について紹介があり、本年7月19日に「旧弘前偕行社環境整備等支援委員会」が設立され、委員会名簿・規約が報告された。特に、重要文化財建造物「旧弘前偕行社」と同建造物と一体となっている「遼止園（大正天皇が命名）」及び前庭が完成したならば、建造物と庭園が一体となって、ほぼ完全な形で現存する旧偕行社が、極めて貴重な旧陸軍の遺産として、今後百年先まで存続継承させるべく協力が話し合われた。

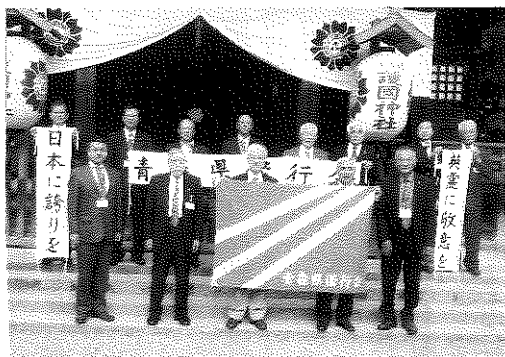
5番目に「今後の事業計画（案）」が審議された。

総会終了後、同神社拜殿前で昨年作成された「青森県偕行会旗」、「青森県偕行会」の横断幕、偕行社理念の「英霊に敬意を」及び「日本に誇りを」の懸垂幕を背景に、全員で写真撮影をした。

その後拜殿において全員が正式参拝を行い、2万9千181柱の御霊を慰霊顕彰した。

引き続き直会となった。会場は総会を行った社務所大広間で、同神社「創建150年記念事業」により改築が行われたばかりの新装の広間であった。

直会では会長の献杯の発声で始まり、1年振りの交流の輪を広げた。5時間に及



んだ総会、正式参拝、直会の最後には「海ゆかば」を高らかに歌い、引き続き2台の車で旧弘前偕行社を見学した。見学に際しては文化庁職員の説明があり、青森県偕行会での例大祭と引き続き弘前公園観桜会での再会を期し、旧弘前偕行社を後にした。

青森県偕行会総会と正式参拝

事務局長 稲村孝司 陸自75

青森県偕行会は、実りの秋を迎えた9月23日、弘前市にある青森県護國神社において、平成29年度の総会を開催した。

長年旧軍関係者の多かった青森市で行っていたが、昨年の総会から英霊顕彰に相応しい護國神社で開催すべしとの決